

インド：政策金利を0.25%引き上げ6.50%に

当社運用担当者はインド株式・債券に引き続き前向きな見方

HSBC投信株式会社

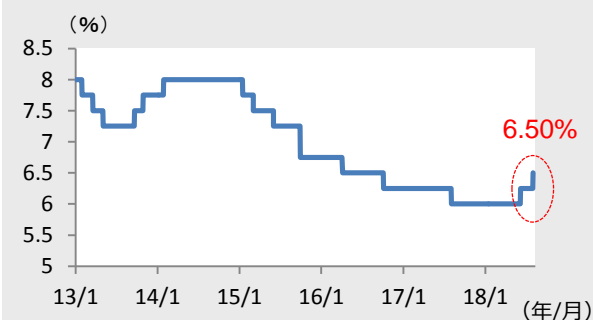
2018年8月2日

- ▶インド準備銀行（中央銀行）は8月1日（水）、政策金利を0.25%引き上げ6.50%とした
- ▶2会合連続の利上げであり、政策スタンスは「中立」を維持。当面は追加利上げの可能性は低いと見る
- ▶当社運用担当者は、インドの株式・債券市場に引き続き前向きな見方

予想通り0.25%の利上げを決定

- ▶インド準備銀行（中央銀行）は8月1日（水）、インフレ抑制と資本流出抑制を目的に、市場予想通り、政策金利のレポレートを0.25%引き上げ6.50%とすることを決定し、即日実施しました。中央銀行は今年6月に2014年1月以来の利上げを実施しており、2会合連続の利上げとなりました（下図参照）。なお、金融政策のスタンスは「中立」を維持しました。

政策金利（レポレート）の推移
(2013年1月1日～2018年8月1日)



出所：データストリームのデータをもとにHSBC投信が作成

- ▶中央銀行は、声明で「国内の経済活動は増勢を維持しており、需給ギャップは解消した。しかし、向こう数ヶ月は、インフレ率を巡る不確実性について注視する必要がある」としています。また、消費者物価指数（CPI）上昇率を4%に維持する中期目標の公約達成を再確認しました。
- ▶インフレ率は6月のCPIが前年同月比+5.0%と5月の+4.9%から僅かながら加速しました。食料品とエネルギーを除くコアインフレ率も上昇しました。CPI上昇率は昨年6月の+1.5%を底に上昇傾向を辿っています。
- ▶一方、今回の利上げは大方の予想通りであったため、市場は反応薄でした。

当社の見方～インドの株式・債券市場を引き続き有望視

- ▶今回の利上げは2会合連続であり、また政策スタンスは「中立」が維持されたことから、当面は追加利上げの可能性は低いと当社は見ています。また、将来の金融政策についても、長期に亘る、大幅な利上げ局面に入ることはないと考えます。
- ▶当社の運用担当者は、インドの株式・債券市場を引き続き有望視しています。インド経済は着実に成長しており、モディ政権による構造改革の進展から、成長率はさらに上振れると見られます。また、景気拡大に伴い企業収益が改善しており、株式市場を取り巻く環境は良好と考えます。インド株式の運用では、持続的な収益性を有しながらバリュエーションに割安感のある銘柄を選別しています。インド経済は回復局面に入っていることから、景気循環に左右されにくいディフェンシブセクターよりも景気敏感セクターを引き続き選好しています。
- ▶債券市場では、今回の利上げは既に織り込み済みであり、政策スタンスが「中立」に維持されたことから、安定感が強まることが見込まれます。債券ファンドの運用では、引き続きルピー-建國債を選好しています。インド國債の8%近い利回り水準は非常に妙味があり、通貨下落に対するクッションとしての役割も期待できます。流動性の高い5～10年の國債の組入れを増やしており、また流動性の高い社債も選好しています。
- ▶通貨ルピーは足元では不安定な動きですが、中長期的に底堅い推移を見込んでいます。経済ファンダメンタルズの改善、潤沢な外貨準備高がルピー相場を下支えすると見ています。

HSBC 

Global Asset Management

留意点

投資信託に係わるリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象としており、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し損失が生じる可能性があります。従いまして、投資元本が保証されているものではありません。投資信託は、預金または保険契約ではなく、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入の投資信託は投資者保護基金の保護の対象ではありません。購入の申込みにあたりましては「投資信託説明書（交付目論見書）」および「契約締結前交付書面（目論見書補完書面等）」を販売会社からお受け取りの上、十分にその内容をご確認頂きご自身でご判断ください。

投資信託に係わる費用について

購入時に直接ご負担いただく費用	購入時手数料 上限3.78%（税込）
換金時に直接ご負担いただく費用	信託財産留保額 上限0.5%
投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用	運用管理費用（信託報酬） 上限年2.16%（税込）
その他費用	上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。「投資信託説明書（交付目論見書）」、「契約締結前交付書面（目論見書補完書面等）」等でご確認ください。

- ※上記に記載のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。
※費用の料率につきましては、H S B C投信株式会社が運用するすべての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。
※投資信託に係るリスクや費用はそれぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、かならず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

H S B C投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第308号

加入協会 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/日本証券業協会



ホームページ

www.assetmanagement.hsbc.com/jp



電話番号 03-3548-5690

（受付時間は営業日の午前9時～午後5時）

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、H S B C投信株式会社（以下、当社）が投資者の皆さまへの情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- 当資料は信頼に足ると判断した情報に基づき作成していますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。
- 当資料の記載内容等は作成時点のものであり、今後変更されることがあります。
- 当社は、当資料に含まれている情報について更新する義務を一切負いません。

この資料は情報提供を目的として作成したものであり、特定の商品の投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資判断の最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

金融商品取引法に基づきお客様にご留意いただきたい事項を以下に記載させていただきます。

むさし証券の概要

商号等：むさし証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第105号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

リスクについて

国内外の金融商品取引所に上場されている有価証券(上場有価証券等)の売買等に当たっては、株式相場、金利水準等の変動や、投資信託、投資証券、受益証券発行信託の受益証券等の裏付けとなっている株式、債券、投資信託、不動産、商品等(裏付け資産)の価格や評価額の変動に伴い、上場有価証券等の価格等が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

◎ 上場有価証券等の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合や、裏付け資産の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合、上場有価証券等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

◎ 新株予約権、取得請求権等が付された上場有価証券等については、これらの権利を行使できる期間に制限がありますのでご注意ください。

◎ 上場有価証券等が外国証券である場合、為替相場(円貨と外貨の交換比率)が変化することにより、為替相場が円高になる過程では外国証券を円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では外国証券を円貨換算した価値は上昇することになります。したがって、為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。

※ 裏付け資産が、投資信託、投資証券、預託証券、受益証券発行信託の受益証券等である場合には、その最終的な裏付け資産を含みます。

※ 新規公開株式、新規公開の投資証券及び非上場債券等についても、上記と同様のリスクがあります。

手数料等諸費用について

当社取り扱いの商品等にご投資いただく場合

各商品毎の所定の手数料をご負担いただく場合がありますが、商品毎に異なるため、ここでは表示することができません。

また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

投資信託につきましては、手数料の他、信託報酬等・その他の費用(監査費用、運営・管理費用等)等を御負担いただきますが、これらの費用等は、事前に計算できませんので表示しておりません。

当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

【広告審査済】